

2学期の始業に当たって

皆さん、こんにちは。

新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大傾向に歯止めがかからず、何かと制限が多く、予防対策に細心の注意を払う日常生活が続いていますが、そうした中でも、皆さんは認知の視点を変えて、それぞれに心身の充実を図る夏休みを過ごしてくれたことと思います。

現在県内には「新型コロナウイルス特別警報Ⅱ」が発出されていることから、別途連絡のとおり、当面は対面とリモートの授業と、自宅での課題学習を併用しながら学校教育活動を進めていきます。感染拡大抑止のために、皆さんの協力をよろしくお願いいたします。

さて、2学期の始業に当たり、うれしいお知らせを一つ。

9月2日に、本校の先輩で、ゲームアプリ「ポケモンGO」の開発リーダーを務められた野村達雄さんを講師にお迎えしてのキャリア教育講演会が実現することになりました。

野村さんの講演会については、昨年来その計画を進めておりましたが、コロナ禍や、大変ご多忙な野村さんのご都合との調整もあり、その機会が延び延びになっていました。

現況を鑑みてリモートによるご講演ではありますが、貴重なお話しを伺う機会に恵まれたことはよろこばしい限りです。

私も野村さんのお話しを伺える機会を楽しみにしていたところ、8月7日の信濃毎日新聞の「山ろく清談」に野村さんが登場されました。また8月11日に信越放送で放映された「未来はキミを待っている 長野県出身トップランナーのメッセージ」という特番にも野村さんが登場されました。まさに「時の人」でいらっしゃいます。

野村さんは中学校時代に新聞配達のアルバイトでためた7万円とお父さんが援助してくださった3万円でパソコンを買い、プログラミングの独学を始められたそうです。

2013年にソフトエンジニアとしてアメリカのグーグル本社に赴任された際、シリコンバレーでは様々な国籍の方が働いておられ、「多様であることを許容することで生まれる一体感」があったとお話しになっていました。また、そこには「失敗を許容する文化」があったそうです。

野村さんは番組の中で、「好きなことをとことん！」というメッセージを送っていらっしゃいました。「失敗なんてない」「チャレンジしなければ自分を試すことすらできない」ともおっしゃっていました。9月2日の講演会ではどのようなお話しが伺えるのか、大変楽しみです。

番組の中では長野県出身の7人のトップランナーの方が紹介されていましたが、VFXと呼ばれるコンピュータグラフィクスを駆使する映画監督として著名な山崎貴さんの『『どうせ』と言わない』、昨年のドラフト会議で横浜DeNAベイスターズから2位指名を受け1年目にして活躍している牧秀悟選手の「自分を信じる」というメッセージも個人的には印象に残りました。

皆さん、2学期も失敗を恐れず、今できる、やってみたいことにチャレンジしていきましょう。

最後にいつものお願いです。2学期も基本的な新型コロナウイルス感染症防止策の徹底と、この感染症に関わって、不当な差別や偏見が生じないように、寛容や共感、協調を大切にした行動をお願いします。

また、今年度新規に開通した高田一若槻線はSBC通りより南側では下り坂が続きます。自転車で下る際、スピードを出し過ぎて、交差する道路から出てくる自動車・自転車・歩行者等と衝突する事故を起こさないように十分注意してください。自転車に乗る際は安全な運転をお願いします。